

山口県で記録された外来種(外来鳥)リスト

小林 繁樹・原田 量介・山根 和親・開作 秀敏
村本 和之・立野 昌宏・弘津 聖也

「山口県の自然」第77号(2017年3月)別刷

山口県立山口博物館

山口県で記録された外来種(外来鳥)リスト

小林 繁樹¹⁾・原田 量介²⁾・山根 和親³⁾・開作 秀敏⁴⁾
村本 和之⁵⁾・立野 昌宏⁶⁾・弘津 聖也⁷⁾

1. 山口県版レッドデータブック改訂と山口県で記録された外来種(外来鳥)リスト作成について

山口県(1)では「レッドデータブックやまぐち(山口県の絶滅の恐れのある野生生物)」の改訂事業を行っている。山口県版レッドデータブック改訂作業の一環として、目録類の作成及び改訂では、下記の1~3の作業を進めている。

1. 山口県産鳥類目録(含む亜種)の改訂
2. 山口県産繁殖鳥類リストの改訂
3. 山口県で記録された外来種(外来鳥)リストの作成

しかしながら、山口県で記録された外来種(外来鳥)については、わずかに日本野鳥の会山口県支部(2)による山口県産鳥類目録の中で、当時は日本産の鳥類として扱われていたコジュケイと、飼い鳥が逃げ出したものとしてドバト、ベニスズメ、キンバラの3種の記載が、山口県立山口博物館(3)には山口県産鳥類目録の中に、同じくコジュケイと飼い鳥が逃げて半野生化したものとしてドバト、ベニスズメ、ギンバラ、ブンチョウ、セキセイインコ、キンランチョウ、ホオジロカムリヅルの7種が記載されているだけであった。このように外来種(外来鳥)については、今までにまとまった報告はされておらず、上記2文献に記載があるだけで、不十分なものであった。そこで今回、従来の記録を整理するとともに、新たに情報を収集することによって、山口県で記録された外来種(外来鳥)リストを作成したので報告する。

2. 山口県で記録された外来種(外来鳥)リストの作成について

(1) 外来種とは

村上・鷺谷(4)によれば、外来種(alien species)とは、過去あるいは現存の自然分布域外に導入 introduction(人為的によって直接的・間接的に自然分布域外に移動させること)された種、亜種、あるいはそれ以下の分類群を指し、生存し繁殖することが出来るあらゆる器官、配偶子、種子、卵、無性的繁殖子を含むものをいう。また、外来種のうち、その導入もしくは拡散が生物多様性を脅かすものを侵略的外来種(invasive alien species)という。また、外来種はその起源によって、国外外来種と国内外来種に分けられる(表1)。関連する用語の定義を以下に示す。

導入(introduction)外来種を直接・間接を問わず人為的に、過去あるいは現在の自然分布域外

1) KOBAYASHI, Shigeki 山口県希少野生動植物保護対策検討委員会 鳥類専門部会長 (〒745-0802 周南市栗屋坂田948-24) 2) HARADA, Ryouyuke 3) YAMANE, Kazuchika 4) KAISAKU, Hidetoshi 5) MURAMOTO, Kazuyuki 6) TACHINO, Masahiro 7) HIROTSU, Seiya 2)~7) 山口県希少野生動植物保護対策検討委員会鳥類専門部会委員

へ移動させること。この移動には、国内移動、国家間または国家の管轄範囲外の区域との間の移動があり得る。

意図的導入(intentional introduction)外来種を、人為によって、自然分布域外に意図的に移動およびもしくは放逐すること。

非意図的導入(unintentional introduction)導入のうち、意図的でないものすべてを指す。

定着(establishment)外来種が新しい生息地で、継続的に生存可能な子孫を作ることに成功する過程のこと。

定着と野生化 定着とは野外に逸出(逃げ出すか遺棄された状態)した個体が自然繁殖して種を安定的に存続している状態のことであり、野生化は逸出し生息しているが、まだ自然繁殖して種を安定的に存続させていない状態を指す。

表 1. 外来種に関する用語の整理

		日本に存在する			
		野生状態ではない	野生状態ではあるが非定着	野外に定着	特に生態系への影響が大きいもの
国外起源	潜在的国内外来種	国外外来種	国外野生化外来種	国外外来種	国外侵略的外来種
国内起源	潜在的国内外来種	国内野生化外来種		国内外来種	国内侵略的外来種

一方、川上・叶内(5)は外来生物とは、自然分布しない場所に対して人為的に導入された種、亜種、またはそれ以下の分類群の生物としている。人間によって原産地以外に持ち込まれた生物は、世界各地で野生化しており、定着状況などにより移入種、外来種、帰化種、侵入種など微妙に違う言葉で表現される。ひとくちに鳥の外来種(外来鳥)といっても、野生化の度合いはそれぞれ異なり、まずは逸出した個体そのものがある。多くは野外で一定期間は生存するが、野生状態で繁殖することなく姿を消していく。それでも一部の個体は、つがい相手を見つけて繁殖に至り、稀に数世代を重ねることがある。しかしそのほとんどは一時的で、野外で安定的な個体群を築くのは、更にその一部である。野生化の起源には、愛玩鳥の逸出、狩猟のための導入、野生下で愛でるための放鳥、野良飼っていた家禽の逸出、農業病害虫の駆除のための放鳥、地域的に野生絶滅した種の再導入、分布の狭い種の絶滅リスク軽減のために他の場所への移動などがある。

外来種という言葉に対して、国外から持ち込まれた生物をイメージすることが少なからずあるが、生物の分布を考えるうえで、人間が設定した国境に大きな意味はない。国内であっても自然の生息地からの持ち込みであれば、それは外来生物である。また外来「種」と言った場合、種が単位と考えられがちだが、亜種やそれ以下の単位であれば良いということではない。

ある繁殖集団に属する個体が、遺伝的交流のない別の集団の所在地に持ち込まれれば、たとえ同種、同亜種内であっても、遺伝的攪乱等の問題を引き起こす可能性があるとしている。関連する用語の定義を以下に示す。

遺伝的攪乱 外来生物と在来生物が交雑することで、在来生物の集団がもつ、地域に特有の遺伝的特徴が失われること。

外来生物法 環境省により2005年6月1日に施行された「特定外来生物による生態系等に関わる被害の防止に関する法律」のこと。特定外来生物の飼育、栽培、保管、運搬、輸入などの取り扱いを規制し、

防除等を行うことを目的としている。

侵略的外来生物 外来生物のうち、移入先の生物多様性を著しく脅かす生物。

世界の侵略的外来生物ワースト100 IUCN(国際自然保護連合)により定められた特に生態系等への影響が大きい生物のリスト。鳥類からはシリアカヒヨドリ、インドハッカ、ホシムクドリがランクインしている。

特定外来生物 生態系や経済、人身等に被害を与えるおそれのある外来生物であり、規制や防除の対象となるもの。外来生物法により指定される。個体のみでなく、卵、種子、器官なども含まれる。

要注意外来生物 特定外来生物とは違い、飼育などの規制はないが、生態系に悪影響を及ぼす可能性があるため注意して取り扱う必要がある外来生物。外来生物法で指定されている。インドクジャクやカナダガン、コリンウズラなど。

(2) 日本鳥類目録における外来種の取り扱いについて

次に、日本鳥類目録を発刊している日本鳥学会の日本産鳥類と外来種の取り扱いの変遷について見てみる。日本鳥学会(6)の日本鳥類目録第5版では、日本産の鳥類目録に外来種を明確に分けて記載されておらず、例えばコジュケイの場合、146 コジュケイと明確に日本産鳥類として記載した後、亜種コジュケイについては南中国原産を放鳥したものが増殖したと記載し、亜種台湾コジュケイ(テッケイ)についても放鳥したものが、一部繁殖していると記載している。日本鳥学会(7)の日本鳥類目録第6版では、外来種を日本固有の種と区別するため、本文から外し、繁殖記録があるものだけを附録A APPENDIX A Introduced Species and Subspecies外来種にあげている。上記コジュケイの場合は附録Aに、1 コジュケイで1-1 亜種コジュケイについては本州、佐渡、四国、九州、伊豆諸島、硫黄列島でR B = Resident Breeder留鳥として繁殖。低木林や農耕地に生息する。1-2 亜種テッケイについては、本州(兵庫)でR B留鳥として繁殖。1933年に神戸付近で放鳥される。低木林に生息すると記している。日本鳥学会(8)の日本鳥類目録第7版でも、国内で記録された種のリストと、国内で繁殖記録のある外来種のリストPart B人為的に導入された外来種・亜種の2つのカテゴリーに分けている。リストPart Bに1 コジュケイについては1-1 亜種コジュケイは本州(宮城以南)、佐渡、四国、九州、対馬、伊豆諸島、硫黄列島(硫黄島)でR B留鳥として繁殖。1919年に神奈川で放鳥された。低木林や農耕地に生息する。1-2 亜種テッケイは、本州中部(兵庫)でR B留鳥として繁殖。1933年に神戸付近で放鳥された。低木林に生息すると記している。

(3) 山口県で記録された外来種(外来鳥)リストの作成手順とリスト化の対象について

村上・鷺谷(4)や川上・叶内(5)による外来種(外来鳥)の定義、日本鳥学会(6,7,8)による日本鳥類目録第5版から第7版の中での外来種の取り扱いを参考に、山口県で記録された外来種(外来鳥)リストでは、人為的活動にともなう、自然な生息地外で野生化している鳥について、そのすべてを取り上げることとする。その中で、山口県内での繁殖記録の有無、写真記録の有無、野生化の起源と野生化の度合い等についても出来るだけ詳しく記載するように努めた。

具体的な山口県で記録された外来種(外来鳥)リストの作成手順については、

- ・既往文献における外来種(外来鳥)に関する記載の探索
- ・日本野鳥の会山口県支部野鳥観察カードデータベースの外来種(外来鳥)の検索・抽出

・日本野鳥の会山口県支部会員からの外来種（外来鳥）の観察情報及び写真の収集の結果をもとにリストを作成した。

3. 山口県で記録された外来種（外来鳥）リスト

山口県で記録された外来種（外来鳥）リストを以下に示す。記載内容は、以下の通り。

目名・科名・種名、日本国内における生息状況、原産地、移入時期、外来生物法の指定状況、移入の経緯とカテゴリー（移入の大まかの由来を示す）。必要な場合は山口県の生息状況等について文献をもとに記載し、山口県内の観察例は、観察場所、観察年月日、個体数、観察者、観察内容（併せて写真の有無、繁殖の有無を記載）、引用文献名（観察内容の後に引用文献番号で示す）の順に示す。参考の為に川上・叶内(5)による移入の経緯のカテゴリーを以下に記す。

家禽:食用、農業用の飼育鳥に由来するもの。 狩猟:狩猟の目的で移入したもの。

愛玩:個人や施設の愛玩目的の飼育鳥由来のもの。 国内移入:国内の他地域から個体を移入したもの。

再導入:野生個体群が絶滅した地域に保全を目的として他地域由来の個体を移入したもの。

1. コリンウズラ

キジ目ナンベイウズラ科。川上・叶内(5)によれば原産は北米中東部、メキシコ。移入の経緯は猟犬の訓練のために放鳥。1980年代から狩猟目的で放鳥されるようになり、野生下で繁殖している可能性が高い。外来生物法で要注意外来生物に指定されている。

山口県内の観察例

山口市阿知須きさら浜自然観察公園 2008/7/26 成鳥1羽 原田量介 園内樹林で。写真有り。

山口市阿知須きさら浜自然観察公園 2009/4/12 成鳥1羽 川口哲男 公園内で草原に隠れようとする1羽を観察。写真有り。

山口市阿知須きさら浜自然観察公園付近 2009/10/7 雛1羽 原田量介 公園附近西側草地にてコリンウズラの雛1羽を保護。写真有り。この記録は本種の山口県初繁殖記録である。

山口市秋穂二鳥4431 2010/4/26 2+羽 有馬 優 数羽が鳴きながら草の中から姿を現す。写真有り。

2. コジュケイ

キジ目キジ科。日本鳥学会(8)によれば本州(宮城以南)、佐渡、四国、九州、対馬、伊豆諸島、硫黄列島(硫黄島)でR B留鳥として繁殖。1919年に神奈川で放鳥された。川上・叶内(5)によると原産は中国東南部。移入の経緯は狩猟目的で放鳥され、野生下で繁殖。1919年の神奈川での放鳥が最初の記録。島嶼を含めて各地に移入され火山列島の硫黄島でも野生化している。北海道にも移入されたが定着しなかった。

日本野鳥の会山口県支部(2)、山口県立山口博物館(3)、山口県(9)によれば山口県では1955年頃から狩猟鳥として放鳥され、近年各地で見られ、山根(10,11,12)による日本野鳥の会山口県支部が主催した探鳥会で観察報告があるほか、県内各地で行われた鳥類センサスの報告、例えば小林・幡部(13)、小林・川元ほか(14)、小林(15,16,17,18,19)、武下(20)、山本(21,22,23,24)、岡田(25)、小林・内山・内山(26)、末村(27)、崖(28,29,30,31,32,33)、山根(34)など多くの観察報告がある。日本野鳥の会山口県支部(35,36)

の山口県版鳥類繁殖分布調査に基づく分布図を図1に示す。1990年版(図1左)ではほぼ県内全域に生息するが、県西部の山地に生息確認サブメッシュが多く、日本海側や県東部の島根、広島県境付近の山地には生息記録が少ない。キジと極めてよく似た分布をしている。島嶼部では大島郡屋代島、防府市向島で繁殖ランクB(繁殖の可能性有り)が記録された。2000年版(図1右)でも繁殖分布域に大きな違いは認められないが日本海側の生息サブメッシュが減少した。島嶼部では大島郡屋代島、防府市向島で繁殖ランクBが記録された。

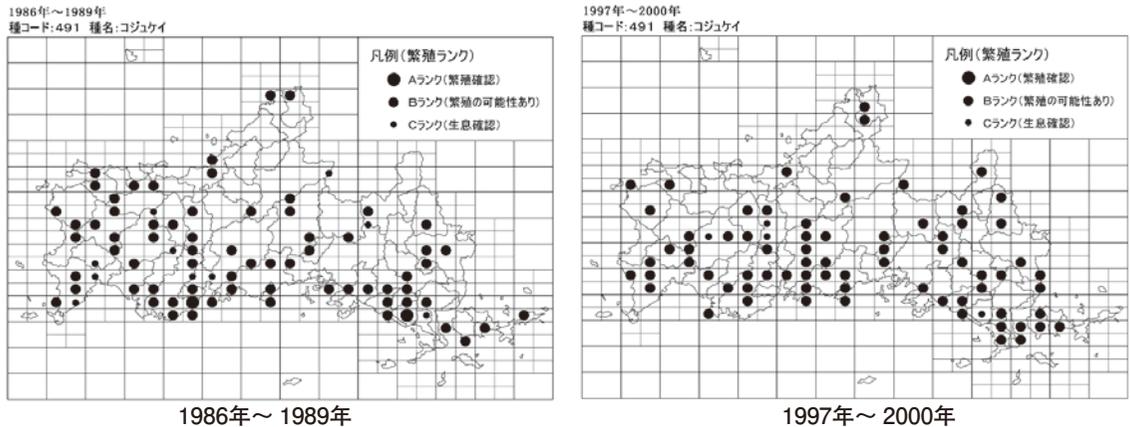


図1. コジュケイの繁殖分布調査結果(日本野鳥の会山口県支部1990・2008)

下関市長府 1976/5/* 1羽 梶畑哲二 写真有り (2)

熊毛郡大和町塩田 1988/5/8 若鳥1羽 山本健次郎 地面を歩く若鳥1羽を観察 (35)

宇部市東岐波区古殿長原 1988/8/30 成鳥1羽卵4個 城山 登 野菜畑で抱卵中 (35)

美祿郡秋芳町岩永枅田笹ヶ峠 1989/8/26 成鳥2羽巣立ち雛4羽 小川孝生 県道側の山地土手で親鳥2羽と巣立ち雛4羽が餌をついばむ (35)

光市室積新宮青年の家裏山 1996/5/16 1羽 山本健次郎 ブッシュの中で威勢よくチョットコイを相当長時間にわたって繰り返す (36)

山口市宮野上 1996/7/5 岡崎美智子 1羽 1992/4/14以来4年振りに鳴き声を聞く (36)

豊浦郡豊北町寺地 1997/5/5 小林繁樹 1羽 林の中からピッピクイ(チョットコイ)の大きな囀り。その後同じ林の中からピューピューという鳴き声も (36)

宇部市霜降山 1998/9/12 成鳥♀1羽幼鳥3羽 崖登司之 成鳥♀1羽幼鳥3羽が地上にて休憩。山道で泥浴び。幼鳥は2/3大。

大島郡橘町安下庄安高 1999/4/16 1羽 村本和之 チョットコイという鳴き声 (36)

玖珂郡美和町生見小学校付近 2000/4/4 1羽 村中政文 林の中から1羽の鳴き声 (36)

山陽小野田市江汐公園 2006/1/13 2羽 川口哲男 草地を出て空地を歩行移動。写真有り。

宇部市丸山ダム 2010/7/18 ♂1♀1羽 崖登司之 カウカウと♂が地表で警戒。♀は営巣。

長門市七重有宗山林道 2011/6/10 3羽 今井章彦 林道を車走行中、前方に姿視認。写真有り。

3. ヤマドリ

キジ目キジ科。日本鳥学会(8)による日本鳥類目録第7版の国内で繁殖記録のある外来種のリストPart B外来種・亜種では、亜種不明が淡路島、小豆島、隠岐でR B留鳥として繁殖する。川上・叶内(5)によると原産は本州、四国、九州。移入の経緯は国内移入。狩猟目的で放鳥され、野生下で繁殖。亜種ヤマドリ、亜種ウスアカヤマドリ、亜種コシジロヤマドリが各地に放鳥されているとしている。県内で自然分布し繁殖もしているが、放鳥も行われており山口県自然保護課によると、山口県では1997年度から、山口県内に生息するヤマドリの亜種注)を考慮して、亜種ウスアカヤマドリを猟友会に委託して年間90～360羽(平成18年から平成27年の放鳥実績)を県内の鳥獣保護区に標識を装着後、放鳥している(山口県自然保護課提供資料による)。

注)当初、山口県東部(山間部)はシコクヤマドリ、山口県西部(海岸部)はウスアカヤマドリ。現在はウスアカヤマドリのみを放鳥している。

山口県内の観察例でも足環がついた個体の観察例がある。

山口市鴻ノ峰 2004/6/16 ♀1羽 恩塚正則 林道の草むらで採食する。20mまで近づけ右足に銅の足環がついていた。1時間後500m離れた林道でも確認。同一個体かは不明。

4. キジ 4-1. キジ亜種不明

キジ目キジ科。日本鳥学会(8)による日本鳥類目録第7版の国内で繁殖記録のある外来種のリストPart B外来種・亜種では、キジ亜種不明が隠岐、見島、硫黄列島(硫黄島)、伊豆諸島(新島、式根島、三宅島、八丈島)、トカラ列島(中之島、諏訪之瀬島)奄美諸島(奄美大島、喜界島、徳之島、沖永良部島、与論島)、宮古島、北大東島でR B留鳥として繁殖する。県内では自然分布し繁殖もしているが放鳥も行われている。

日本野鳥の会山口県支部(37)によれば、見島ではキジは戦後放鳥された種類で、下記の5例を報告するとともに1977年4月～1979年9月までの延べ100日の調査で生息期間を月別に示し、2月、4月、5月に記録したとしている。武下(38)は、見島ではキジは過去に放鳥例があり、春季によく囀りが聞かれるとし、1976年5月～1993年5月の調査結果から生息期間を月別に示し、2月、3月、4月、5月に記録している。これとは別に山口県自然保護課によると、確認できた資料では山口県では1962年度から、山口県内に生息するキジの亜種を考慮して亜種キュウシュウキジのみを猟友会に委託して、年間1,680～3,000羽(平成18年から平成27年の放鳥実績)を県内の鳥獣保護区及び休猟区に標識を装着して放鳥している。但し、期間内で見島(平成11年度まで遡って)や平郡島(平成16年度まで遡って)への放鳥実績はない。また亜種コウライキジの放鳥実績もない(山口県自然保護課提供資料による)。

山口県内の観察例でも足環のついた個体が観察、撮影された。

(萩市見島の観察例)

萩市見島八町八反 1977/5/1 1羽 三宅貞敏ほか 八町八反の上方で鳴き声 (37)

萩市見島観音崎 1978/4/27 1羽 白石乃爾ほか 観音崎付近のマツ林 (37)

萩市見島観音崎 1978/4/30 1羽 川元 武 観音崎付近 (37)

萩市見島八町八反 1979/5/5 1羽 小林繁樹 八町八反周辺 (37)

萩市見島本村 1979/5/5 1羽 三宅貞敏 本村の西方 (37)

(その他の地域の観察例)

下松市久保中ノ迫 2003/4/12 ♂1♀1羽 山本健次郎 アスファルト路上を歩く♂♀に出会う。県の放鳥個体らしく足環が付いていた。写真有り。

山口市東鳳翺山 2011/11/12 ♂1羽 恩塚正則 林道に動かずにいたので4m前で急停車。左足に幅1cmの銅のリングを付けていた。

4. キジ 4-2. 亜種コウライキジ

キジ目キジ科。日本鳥学会(8)によれば北海道、本州、四国(愛媛)、九州(長崎)、対馬、壱岐、琉球諸島(沖縄島、伊是名島・宮古島、石垣島)でR B留鳥として繁殖。川上・叶内(5)によると原産は中国東南部、朝鮮半島。狩猟目的で放鳥され、野生下で繁殖。北海道では1930年から当時の農林省により放鳥された。対馬の集団は、17世紀以前に朝鮮から輸入して放鳥した系統である。

雑種キジ×コウライキジ 厚狭郡山陽町殖生 1983/4/24 ♂1羽 本正修一ほか 雑種を観察(3)

5. ニワトリ

キジ目キジ科。川上・叶内(5)によると原産は東南アジアで、移入の経緯は食用の放し飼いから逸出。白、黒、褐色など様々な品種があり、全国各地で記録がある。

熊毛郡田布施町米出干拓地 1991/5/4 ♂3羽 内山由子 ヨシ原を抜けて干拓地内へ入ると♂3羽を観察。捨てられた個体が生き延びている様だ(26)

6. シナガチョウ

カモ目カモ科。川上・叶内(5)によると原種のサカツラガンは中国、ロシアなどで繁殖。移入の経緯は食用、愛玩用の飼育鳥が逸出。サカツラガンに似るが額にこぶがある。

美祿市美東町植島 1998/6/10 1羽 岡村裕子 池の中を白色の1羽が泳ぐ注)。写真有り。

注)観察者はガチョウで報告があったが写真の個体は額にこぶが認められたのでシナガチョウとした。

川上・叶内(5)によれば、ガチョウはカモ目カモ科。原種のハイイロガンはヨーロッパ、ロシアなどで繁殖。移入の経緯は食用、愛玩用の飼育鳥が逸出。主な品種にエムデン系とツールーズ系の2系統があるとしている。シナガチョウとガチョウを区別せず、両種をひっくるめてガチョウといている場合が多いように思われる。

7. コクチョウ

カモ目カモ科。日本鳥学会(8)によれば本州(茨城)でR B留鳥として繁殖、九州(宮崎)でC B一時的に繁殖。川上・叶内(5)によると原産はオーストラリア。食用、愛玩用の飼養鳥が逸出し、野生下で繁殖。

下関市王司 1984/12/4 1羽 水口ミキ子 (39)

厚狭郡山陽町広瀬厚狭川 1羽 1985/7/3 同日付の新聞記事を収録。小林繁樹提供 (39)

8. コブハクチョウ

カモ目カモ科。日本鳥学会(8)によれば北海道、本州(青森、群馬、茨城、東京、石川、大阪、京都、鳥取、島根)、佐渡、四国(香川)、九州(長崎、宮崎)でI B移入種として繁殖。川上・叶内(5)によると原産はヨーロッパ中西部。観賞用の放し飼いかから逸出し、野生下で繁殖。山階鳥類研究所(40,41)によると北海道ウトナイ湖で自然繁殖した個体が茨城県霞ヶ浦まで渡ることが確認された。

岩国市大字荒瀬 1984/3/23~3/9注) 1羽 弘中 毅 (39)

注) 観察日は記載されたままを記入。どちらかの日付に誤りがあるものと思われる。

萩市中津江阿武川 2009/11/6 幼鳥1羽 三谷栄治 写真有り (42)

萩市沖原阿武川 2010/1/10 幼鳥1羽 三谷栄治 昨年11月から飛来して滞在中。

長門市三隅川河口 2014/8/7 1羽 開作秀敏 河口砂州で休息。写真有り。2014/6/9には長門市深川川下流域で市職員が撮影。当時の新聞ではそれ以前は萩市見島にいたとの事 (43)

長門市三隅町三隅川 2014/8/7 若鳥1羽 鹿間信弘 対岸の川に垂れかかった小木の下で水草を食べる。野生の鳥かどうかは不明。

萩市沖原阿武川 2014/11/23 2羽 三谷栄治 遊泳する2羽。写真有り。

下関市豊北町粟野粟野川 2015/1/25 幼鳥1羽 鹿間信弘 カワウが止まっている立ち木の下で佇む。羽色は灰褐色味を帯び、嘴基部のコブは非常に小さい。嘴の色は薄いピンク。

9. バリケン

カモ目カモ科。川上・叶内(5)によれば原産は中南米。移入の経緯は食用として飼育されるが、一部が野生化。紀元前600年頃までに原種あるノバリケンが家禽化され、ヨーロッパ、中国を経て日本に持ち込まれた。

山口市徳地島地島地川 2015/12/21 1羽 立野昌宏 島地温泉付近の島地川で。写真有り。

10. アヒル

カモ目カモ科。川上・叶内(5)によれば原種のマガモは北半球中緯度地域。食用、愛玩用、農業用に飼育されたものが逸出し、野生下で繁殖。白い体に黄色い嘴のシロアヒル、マガモに似た羽色のアオクビアヒルなどの品種があり、マガモとの交雑個体をアイガモと呼び、マガモに似る。世界各地で飼育され、日本には少なくとも鎌倉時代には中国から輸入されていた。

光市島田1丁目島田川河口 1999/10/29 1羽 山本健次郎 台風18号以後姿を現し、島田川下流平成橋から千歳橋間に居つく。日中は中州のヨシの陰にうずくまり休む。脚を怪我している様子。風切は短く飛べない。写真有り。

美東町大田大田川 2000/6/13 成鳥2 幼鳥6羽 岡村裕子 ♂1羽が岩の上で休息。すぐ近くの岩の上に♀と幼鳥6羽がいた。

新南陽市夜市川取水場付近 2000/10/1 4羽 立野昌宏 アヒル1羽とマガモタイプの個体3羽が人に食べ物をもらう。写真有り。

光市浅江木園1丁目島田川 2005/4/10 山本健次郎 3羽当地に居着いて3年目のホシハジロ♀がアヒル3羽と行動を共にし、時々ツルヨシの根を食べたりする。写真有り。

岩国市周東町上久原島田川 2011/1/9 1羽 山本健次郎 カルガモの群れに混じり盛んにディスプレイを繰り返す。カモの白化個体かアヒルか不明。

萩市川島阿武川 2014/1/12 2羽 萩地区探鳥会報告。クロアヒルを観察 (44)

萩市田万川町下田万田万川 2014/3/9 2羽 萩地区探鳥会報告。アヒルを観察 (45)

周南市須々万奥菅野湖渡瀬橋付近 2015/5/13 ♂1羽 小林繁樹 1羽で泳ぐ。写真有り。

周南市平瀬菅野湖 2015/12/1 ♂1羽 小林繁樹 菅野ダムの湖面をアヒル(マガモ♂タイプ)が単独で泳ぐ。飼われている様子はない。

11. カワラバト (ドバト)

ハト目ハト科。日本鳥学会(8)によれば北海道、本州、佐渡、四国、九州、対馬、奄美諸島、琉球諸島にR B留鳥として繁殖する。川上・叶内(5)によると原種のカワラバトの原産地は地中海沿岸から南アジアあたりと考えられることが多いが、正確には不明。移入の経緯は食用飼育からの逸出、式典での放鳥、レース鳩の野生化など起源は多様。日本には平安時代から記録があり、江戸時代以前には堂鳩(だうぼと)、塔鳩(たうぼと)などと呼ばれていた。日本野鳥の会山口県支部(2)、山口県立山口博物館(3)、山口県(9)によれば山口県内では各地に普通に生息し、山根(10,11,12)による日本野鳥の会山口県支部が主催した探鳥会では各地から観察報告があるほか、県内各地で行われた鳥類センサスの報告、例えば日野(46)、小林・幡部(13)、岩井・三宅(47)、幡部・小林(48)、小林・川元ほか(14)、小林(15, 16, 17, 49, 50, 51, 52)、水口(53)、武下(20,54)、小林・弘中(55)、小林・内山・内山(26)、末村(27)、崖(33)、山根(34)でも、多くの観察報告がある。日本野鳥の会山口県支部(35, 36)の山口県版鳥類繁殖分布調査に基づく分布図を図2に示す。1990年版(図2左)では県内の平野部から大きな河川沿いの山地まで普通に分布、繁殖する。主に瀬戸内、響灘沿いに分布が集中し、内陸部の山地や日本海側には少ない。人口の多い都市部に生息するサブメッシュが集中しており、日本海側や県中央部でも都市部や、民家が集中した村落には生息している。2000年版(図2右)では日本海側での記録が減少し、瀬戸内側に分布が偏り、分布が縮小した。

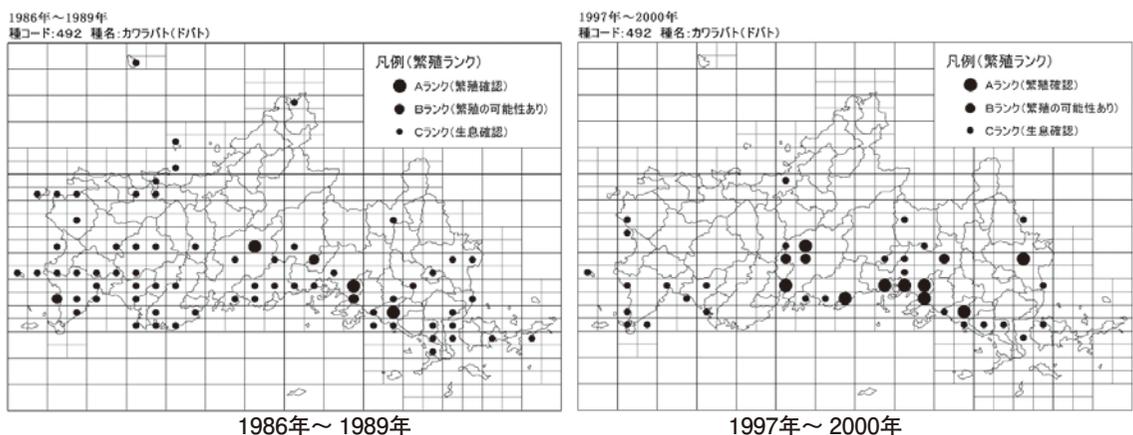


図2. カワラバト(ドバト)の繁殖分布調査結果(日本野鳥の会山口県支部1990・2008)

山口市仁保 1986/5/17 1羽 山根和親 自宅の倉に営巣。親鳥の出入り有り (35)
 光市大字島田 1986/5/* 1羽 山本健次郎 農協倉庫の軒下の割れ目から巣のある屋根裏に繰り返し
 出入り (35)
 防府市西浦 1988/10/* 15+羽 三宅貞敏 スレート屋根に止まる群れ。写真有り (3)
 徳山市銀南街 1997/9/17 雛1羽 徳山動物園保護鳥 商店街で雛1羽を保護 (36)
 徳山市若草町出光若草社宅 1987/12/25~1988/1/11 雛2羽卵2個 稲田国久 1987/12/25 3階にある
 自宅ベランダの洗濯機の裏に営巣。雛2羽。写真有り。1988/1/11上記と同一の巣でかなり成長した雛
 2羽卵2個 (56)
 玖珂郡美和町釜ヶ原 1997/5/23 2羽 弘中 殻 白と灰色の2羽が民家の屋根に止まる (36)
 徳山市中須北菅野湖川久保橋 1997/5/30 成鳥1羽 小林繁樹 道路で10cm位の木切れを拾い嘴にく
 わえ橋下に飛んだ (36)
 萩市椿東松陰神社 1997/8/25 7羽 岩井清陸 境内で人に餌をもらって食べる (36)
 光市大字島田栄町 1998/3/16 19羽 山本健次郎 農機具センターの屋根に数十年来住み着き屋根裏部
 屋で営巣繁殖する (36)
 山口市名田島東開作 2000/8/30 成鳥1幼鳥4羽 岩井清陸 国道2号線の高架下のコンクリート棚上に
 幼鳥4羽がいて成鳥に餌をねだる (36)
 光市虹ヶ浜3丁目自宅ベランダ2013/8/18 1羽 山本健次郎 伝書鳩が放鳥訓練中のコースを外れて迷
 い込む。ベランダに止まり休息。足環の番号はNIPPON??018 028020。写真有り。
 光市室積岩屋 2014/3/7 1羽 山本健次郎 ハヤブサが自分と同大の伝書鳩を捕え国道188号線防波堤
 上でむしって食べる。犠牲となった伝書鳩の脚には青色の足環があった。写真有り (52)
 周南市晴海町晴海緑地公園 2015/12/12 2羽 小林繁樹 求愛行動を観察。写真有り。
 岩国市広瀬末広橋 2016/2/22 1羽 小林繁樹 写真有り。

12. シラコバト

ハト目ハト科。日本鳥学会(8)によれば本州(茨城、栃木、埼玉、千葉)でI B移入種として繁殖、本
 州(群馬)でF B過去に恒常的に繁殖、本州(新潟、福島、東京、神奈川、和歌山、島根)でI V時々来る
 冬鳥または旅鳥、見鳥、九州(大分、鹿児島)、琉球諸島(久米島、宮古島、石垣島、与那国島)でA V迷鳥。
 関東北部の集団以外は自然分布としたが、移入分布の可能性もある。川上・叶内(5)によると原産はユー
 ラシア、アフリカ北部。江戸時代に鷹狩りの獲物として放鳥。外来鳥ではあるが、すでに地域社会の一
 部として親しまれている(埼玉県のみ鳥、越谷市の市鳥)。西日本での記録もあるが、こちらは自然分布
 の可能性がある。

萩市見島 1989/5/1 1羽 岡本恭治 本村~日崎間の焼却場で記録(38)。自然分布の可能性あり。

13. コウノトリ

コウノトリ目コウノトリ科。日本鳥学会(8)によれば本州(埼玉、東京、福井、兵庫)でF B過去に恒
 常的に繁殖。兵庫でI B移入種として繁殖。兵庫県では2005年から飼育個体を放鳥している。長野、山

梨、福井などで放鳥個体の飛来が観察されている。川上・叶内(5)によると原産は東アジア。移入の経緯は野生個体群が絶滅したため、人為的に再導入。日本産の繁殖個体群が絶滅したため兵庫県豊岡市で人工繁殖個体の野生復帰事業(人為的な再導入)が行われている。野生個体も全国各地に冬鳥として飛来することがある。豊岡市で放鳥された個体が山口県内でも観察される。

下関市松屋小野溜池 2012/10/31 1羽 豊田敏則 標識番号J0048。写真有り。

下関市豊浦町黒井村駅 2013/12/1 4羽 豊田敏則 駅北西側の田圃に標識番号J0052、J0065、J0067、J0068の4羽で飛来。その日の日没後移動し翌日福岡県遠賀川に現れたとの事。写真有り。

長門市西深川 2013/12/4 8羽 開作秀敏 兵庫県豊岡市のコウノトリの郷公園で放鳥された8羽(ただし1羽は足環なし)が飛来。写真有り(57)

下関市清末千房町神田川河口付近 2016/5/12 1羽 豊田敏則 標識番号J0106の個体が神田川から木屋川にかけての田圃に長期滞在。7/15に移動し7/21に長門市に現れたとの事。写真有り。

14. モモイロペリカン

ペリカン目ペリカン科。日本鳥学会(8)によれば琉球諸島(沖縄島、渡嘉敷島、石垣島、西表島)でAV迷鳥として野生個体の飛来記録がある。白須(58)によると宇部市常盤公園で飼育しているモモイロペリカンが公園内のペリカン島で抱卵中、梅雨期の集中豪雨で島が水浸しになったため、抱卵されていた卵を管理室で人工ふ化させ、人工飼育したところ3羽が成長し、うち1羽が近くの明光幼稚園へ飛んで行くようになりカッタ君と名付けられ話題になった。

宇部市常盤公園 1980代 白須道徳 1羽 人工ふ化、人工飼育された個体(カッタ君)が明光幼稚園へ飛来し園児と交流(58)

宇部市沖宇部常盤公園付近 1997/3/11 10羽 岡村裕子 常盤公園近くを車で通ると前方に大きな鳥が飛ぶ。写真有り。

15. コシベニペリカン

ペリカン目ペリカン科。日本鳥学会(8)の日本鳥類目録改訂第7版には記載されていない。山階(59)によれば分布はアフリカ(中部・南部)、マダガスカル。

山口市阿知須土路石川河口 2005/9/14 1羽 原田量介 写真有り。

16. ナベヅル

ツル目ツル科。日本鳥学会(8)によれば北海道でAV迷鳥、本州(青森、秋田、山形、宮城、新潟、栃木、群馬、長野、千葉、埼玉、東京、山梨、静岡、愛知、石川、福井、滋賀、三重、和歌山、大阪、京都、兵庫、鳥取、岡山、島根、広島にAV、山口にWV冬鳥)、佐渡、見島でAV、四国(香川でAV、徳島、愛媛、高知でIV時々来る冬鳥又は旅鳥)、九州(福岡、佐賀でPV旅鳥、長崎、大分、熊本、鹿児島でWV、宮崎でIV)、対馬でPV、伊豆諸島(八丈島)、小笠原諸島(父島)、トカラ列島、奄美諸島(奄美大島、徳之島)、琉球諸島(沖縄島、伊良部島、石垣島、西表島、与那国島)ではAVである。

山口県周南市八代のナベヅルの渡来地では近年、越冬する個体数が年々減少してきており対策とし

て、鹿児島県出水市で農作物保護用の防鳥網に絡まって保護されるなどしたナベヅルを八代に移送・馴化飼育し、標識後放鳥(一部の個体にはアルゴシステム：人工衛星用発信器を装着)して、越冬中の野生個体と一緒に北帰行させ、再飛来を期待した増羽事業を、2006年から継続して行い、7次にわたって延べ20羽を移送し、2013年までに死亡した2羽を除く15羽を8回にわたって放鳥している。その成果として放鳥後の移動経路が明らかになったり、八代で放鳥した6羽が翌シーズンに出水市で再確認されたが、残念ながら周南市八代への再飛来の確認記録は今のところない。周南市ツル保護協議会によれば2016年5月に八代に移送された3羽については、これまでの放鳥が1回につき1～4羽と少なかったことから、再飛来の確率を高めるために10羽程度の群れを確保するのが望ましいと判断。今後新たなツルが出水から移送され、一定数が確保されるまで周南市八代鶴保護センターのゲージで引き続き飼育することにし、具体的な放鳥の時期は今後検討していくという(2016/10/2付朝日新聞山口東部版による)。

周南市八代 2007/3/21 3羽 竹林賢二 出水市で保護した個体を、2006/2/25八代に移送し、馴化飼育後、2007/3/3放鳥(標識番号P41・P42・P43。P41とP42にはアルゴシステム装着)し、2007/4/8に北帰行した。9時受信のアルゴシステムで鳥根県益田市付近にいるとの情報を得た。写真有り。

周南市八代 2008/2/16 2羽 竹林賢二 出水市で保護した個体を、2007/5/8八代に移送し、馴化飼育後、2007/12/21放鳥(標識番号P44・P45。ともにアルゴシステム装着)し、2008/4/15に北帰行した。アルゴシステムで搜索したところ大韓民国のウルルン島付近にいる情報を得た。写真有り。

17. ホオジロカンムリヅル

ツル目ツル科。日本鳥学会(8)の日本鳥類目録改訂第7版には記載されていない。山階(59)によれば分布はアフリカ(南部)。山口県立山口博物館(3)によると見島で記録された個体はサファリパークから逃げ出したものと思われるとしている。

大津郡油谷町 1978/7/7 1羽 小林繁樹(39)

萩市見島 1980/8/31 1羽 武下雅文 宇津で籠抜けと考えられるホオジロカンムリヅルを記録。宇津林道の松の木を罫として2年間を見島で過ごした(38)

萩市見島 1981/5/4 1羽 小林繁樹(3)

萩市見島 1982/5/4 1羽 小林繁樹(3)

萩市見島 1982/5/19 1羽 同日付の新聞記事を収録。小林繁樹提供(39)

萩市見島 撮影年月日不明 川元 武 見島で確認し撮影。写真有り

18. オオヅル

ツル目ツル科。日本鳥学会(8)の日本鳥類目録改訂第7版には記載されていない。山階(59)によれば分布はインド北部、ヒマラヤ(Assam東部)、ビルマ、東南アジア(中部)。

光市島田川 1978/4/11 1羽 同日付の新聞記事を収録。笹田成夫・小林繁樹提供(39)

19. セキセイインコ

インコ目インコ科。日本鳥学会(8)によれば本州中・南西部(東京、山梨、岡山)、九州(福岡)でC B

一時的に繁殖。川上・叶内(5)によると原産はオーストリア。愛玩用の飼育個体が逸出し野生下で繁殖。野生個体は緑色だが多数の品種があり黄色や青色など羽色も多様である。

小野田市上木屋 2005年から20数年 1羽 村田稔恵 庭のモミジの枝でセキセイインコが止まって鳴く。背を向けて植木鉢の手入れをしていると肩に来て止まる(60)

徳山市周南緑地東公園 1975/11/7 1羽 小林繁樹 籠脱けであろう(3)

光市島田川河口 1977/12/11 1羽 小林繁樹 スズメと行動を共にしているグリーンセキセイインコ1羽がヨモギの実を食べた(13)

熊毛郡平生町人島溜め池 1983/10/12 1羽 内山由子 17時30分就寝前集合で電線に止まるムクドリ、コムクドリ100+羽の集団の中に1羽入っていた(26)

山口市矢原 1987/3/15 1羽 小林繁樹ほか(3)

山口市嘉川北ノ江開作 1988/9/3 成鳥♂1♀1羽 標識者不明 標識放鳥。同一日に♂と♀が捕獲されており、ペアで行動していた可能性がある(61)

山口市嘉川北ノ江開作 1989/*/* 成鳥1羽 標識者不明 標識放鳥(61)

20. キエリボタンインコ(キエリクロボタン)

インコ目インコ科。日本鳥学会(8)の日本鳥類目録改訂第7版には記載されていない。山階(59)によれば英名Masked Lovebird。分布はアフリカ(タンザニア北東部)。

小野田市上木屋 2009/3/8 1羽 村田稔恵 畑仕事中の家内の帽子に止まり、すぐ隣家の物置の屋根に止まった小鳥がいた。近寄っても逃げず保護し警察に届けて飼い主を探す。届け出の必要上小鳥屋で名前を聞くとキエリボタンインコとの事。3/15朝8時頃は元気にさえずり、餌も食べていたのに8時半ごろケースの清掃時には死亡していた。まだ体温も温かかった(62)

山口市小郡下郷 2011/6/30 1羽 今井章彦 聞き慣れぬ声高の鳴き声。自宅屋根上に姿。欧州の英文図鑑にMasked Lovebirdの名あり。写真有り(63)

21. カササギ

スズメ目カラス科。日本鳥学会(8)によれば九州(福岡、佐賀、長崎、大分、熊本)でI B移入種として繁殖、北海道、本州(新潟、長野、東京、兵庫、広島)、四国(愛媛)、対馬でC B一時的に繁殖、本州(青森、秋田、岩手、山形、群馬、富山、千葉、福井、愛知、岐阜、石川、滋賀、大阪、島根、山口)、粟島、佐渡、四国(香川)、九州(宮崎、鹿児島)、男女群島でI V時々来る冬鳥または旅鳥である。九州の集団以外は自然分布としたが、移入分布の可能性もある。川上・叶内(5)によると原産は北半球中緯度地域。愛玩用の飼育個体が逸出し、野生下で繁殖。日本には飛鳥時代の598年から輸入の記録がある。九州の個体群は、約400年前に朝鮮半島から持ち込まれたものが起源と考えられている。九州以外の個体群も移入分布と考えられることが多いが、自然分布の可能性も否定できない。北海道では1980年代から記録され、繁殖もしている。山口県立山口博物館(3)によれば日本では九州の一部に生息しているだけで、飼育しているものが逃げた可能性もあるが、西田 智の関門海峡を渡る観察例がある。

下関市蓋井島 1987/4/4 1羽、1987/4/12 1羽 末次 朗(3)

豊浦郡菊川町田部 1986/5/3 1羽、菊川町田部 1986/5/4 1羽 水口ミキ子(3)
防府市西浦付近 1987/9/1 1羽 藤村純子(3)
熊毛郡上関町祝島 1997/2/10 1羽 岡部正信 写真有り(64)
下関市豊北町角島平坊 1998/2/12 4羽 藤岡茂夫 4月下旬頃まで滞在。写真有り(64)

22. ガビチョウ

スズメ目チメドリ科。日本鳥学会(8)によれば亜種不明が本州(宮城、栃木、福島、群馬、長野、茨城、埼玉、東京、神奈川、山梨、静岡、愛知)、九州(福岡、佐賀、長崎、大分、熊本、宮崎)でR B留鳥として繁殖する。川上・叶内(5)によると原産は中国南部、東南アジア北部。移入の経緯は愛玩用の飼育個体が逸出し、野生下で繁殖。外来生物法で特定外来生物に指定。

今回、収集できた観察例は下記の3例である。

山口市兄弟山 2014/11/13 1羽 恩塚正則 自然林からクロツグミに似た複雑なさえずりが聞こえた。

音色はイカルに似る。1分以上さえずるがガビチョウか、ソウシチョウか？

宇部市川上男山 2013/8/29 1羽 原田量介 自宅庭先コナラの枝先で鳴いていたが飛去。

防府市矢筈ヶ岳 2016/5/18 ♂成鳥1羽 渡辺 徹 山頂付近でさえずる。

23. ソウシチョウ

スズメ目チメドリ科。日本鳥学会(8)によれば亜種不明が本州(関東以南)、四国、九州でR B留鳥として繁殖。川上・叶内(5)によると原産は中国中南部から東南アジア北部。移入の経緯は愛玩用の飼育個体が逸出し、野生下で繁殖。本州中部以西で確認記録がある。江戸時代から輸入されており、本州と九州では1980年代ごろ、四国では1990年代から野生個体群が確認されており、分布は拡大傾向にある。外来生物法で特定外来生物に指定。山口県内のソウシチョウの記録については小林(65)が詳しく、山口県でソウシチョウが初めて発見されたのは2004年10月から11月にかけてで、たてつけに4例が記録された。最も早い観察例は2004年10月23日の下関市豊浦町宇賀で標識調査時に♂♀各1羽が捕獲、標識後放鳥された。これら4例はいずれも冬期の観察で、記録域は山口県西部から山口県中部、生息環境は比較的標高の低い山地や市街地に近い場所であった。このことからソウシチョウの山口県への侵入は、その時すでに繁殖期の観察記録がある九州由来の個体群が越冬期に繁殖地から低山に移動、分散してきたと考えられる。その後も山口県中部で記録が増加し、2009年2月には山口県東部の岩国市生見川ダムでも記録が現れる。この例では山口県に隣接する中国地方の山地から、冬期に越冬のための移動、分散が考えられる。ここまではいずれも越冬期の記録であるが2011年5月に初めて繁殖期のさえずりが山口県北東部の飯ヶ岳で記録され、その後も弟見山、羅漢山と繁殖期の記録が相次ぐ。これらはいずれも山口県北東部の内陸部で、標高の高い自然林が中心の山地であった。今のところ繁殖に関する情報は、繁殖期のさえずりしか記録されていないが、羅漢山では繁殖期を通して記録され、さえずりが観察されていることから、本種が繁殖している可能性が極めて高いとしている。ソウシチョウの生息分布の拡大傾向を、小林(65)の報告に今回新たに収集できた記録を追加した分布図(図3)で示す。県北東部の内陸で繁殖期の記録が、更に増えているが判る。

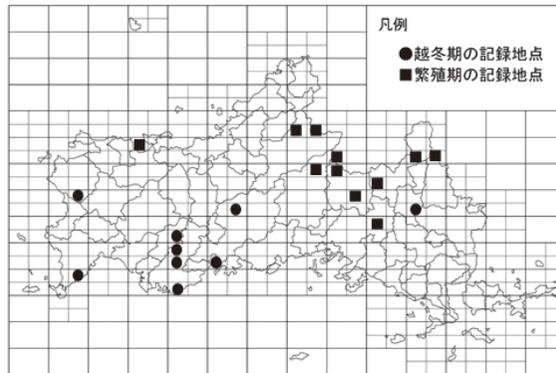


図3. ソウシチョウの観察記録があった場所

山口県におけるソウシチョウの生息分布の拡大傾向(小林2014)を改変。

- 下関市豊浦町宇賀 2004/10/23 ♂1♀1羽 梶畑哲二 標識調査時に♂♀2羽を捕獲。今秋は台風の被害により木の実等食物が無く低地に移動したのか？ 山口県初記録と思われる (65)
- 山口市阿知須きらら浜自然観察公園 2004/11/7 1羽 原田量介 公園内の樹林で1羽を初記録。写真有り (66)
- 山口市鋤尖山 2004/11/8 6羽 恩塚正則 ピー、ピォー、プリティと美しい大きな鳴き声が聞こえ3羽が早いスピードで直線的に飛んで来て5m先のヤブツバキに止まり小刻みによく動き、木から木へ鳴きながら移動。口笛で真似ると20m先からウグイスの地鳴きに似た声が入して3羽がササの上に出てきた。初認。11/12 7時55分にも同所でフィー、フィーと鳴く声を聞く (65)
- 下関市長府宮崎町 2004/11/21 5~7羽 梶畑哲二 自宅近くの神社の森で変わったさえずりを耳にする。九州でよく聞くソウシチョウのさえずりと思い現地で確認。5~7羽の小群で11/30まで1週間近く確認出来た (65)
- 宇部市西岐波区後岡ノ辻 2005/3/6 1羽 村田稔恵 宇部市西岐波区のお宅で庭にヒマワリの種子、米等の餌を置いたところ、アオジ、シロハラ、ホオジロ、スズメ等が来たが、そのうちソウシチョウ1羽が早朝来るようになり、たまに9時~10時頃にも来る。写真有り (65)
- 山口市兄弟山 2008/11/21 4±羽 恩塚正則 ジェツやウグイスの地鳴きに似た声で鳴きながら、常緑樹のやや暗い枝先を移動。2004/11/8以来2回目 (65)
- 岩国市生見川ダム 2009/2/7 1+羽 村中政文ほか 生見川ダムでの探鳥会時に記録 (67)
- 山口市兄弟山 2010/12/20 2羽 恩塚正則 ピーヒン、プリティ、オニオンと移動しながら鳴く。100m先でも移動しながら鳴く。スズタケのある下層を移動。6年前観察した場所と同じ (65)
- 宇部市吉見 2011/1/14 2羽 上原勇一郎 木の枝に止まってさえずる (65)
- 宇部市渡瀬 2011/2/20 5+羽 今井章彦 笹藪の中でジェジェと地鳴き。道路際で時々採餌 (65)
- 山口市徳地飯ヶ岳 2011/5/22 1羽 小林繁樹 滑松(なめらまつ)の生える登山道を進む時にソウシチョウがさえずる。繁殖期のさえずりは県内では初めてだった (65)
- 下関市火の山山上駐車場脇 2012/1/29 5±羽 豊田敏則 茂みで鳴き時折姿を現す。写真有り。

- 周南市鹿野弟見山 2012/4/28 1羽 小林繁樹 林床にカタクリが咲くブナ林でさえずる(65)
- 周南市鹿野長野山 2013/7/18 1羽 寺本明広 枝に止まる1羽を撮影。写真有り。
- 岩国市錦町羅漢山オートキャンプ場付近 2014/5/14 1羽 小林繁樹 ササ藪中を1羽が移動(65)
- 岩国市錦町羅漢山人工スキー場付近 2014/5/14 1羽 小林繁樹 さえずりを聞いた(65)
- 岩国市錦町羅漢山オートキャンプ場付近 2羽 2014/6/19 小林繁樹 ササのブッシュの中をジュッあるいはジュッ、ジュッと鳴きながら移動する。写真有り(65)
- 周南市鹿野弟見山 2014/6/25 1羽 小林繁樹 1羽がさえずる(65)
- 岩国市錦町羅漢山 2014/9/20 羽数不明 村中政文ほか 岩国地区探鳥会。ハチクマの渡り観察会時ソウシチョウのきれいなさえずりを聞く。姿も確認(68)
- 岩国市錦町羅漢山県道119号(中国自然歩道)2014/9/26 2羽 小林繁樹 県道119号錦佐伯線を生山峠に向かう途中で、クロツグミに似たさえずりを2ヶ所で聞く(65)
- 岩国市錦町羅漢山人工スキー場付近 5羽 2014/10/16 小林繁樹 カナクキノキの実を5羽が啄む。他にクロツグミ、マミチャジナイ等が来て食べる。ソウシチョウのさえずりも確認(65)
- 周南市須々万菅野湖中の島公園 2015/4/17 4羽 小林繁樹 中の島公園の斜面のササ藪の中を移動。ジュジュジュ・・と盛んに警戒音を出す。写真有り。
- 山口市阿東十種ヶ峰 2015/4/22 10±羽 今井章彦 活動センター付近を歩くと藪の中で地鳴き発生。写真有り。
- 長門市日置黄波戸 2015/5/12 1羽 白石正喜 山中で死体発見。目の部分が腐敗。写真有り(69)
- 山口市阿東十種ヶ峰6合目駐車場 2015/9/2 10羽 有馬 優 うるさく鳴きながら群れで木の実を採食。写真有り。
- 岩国市錦町羅漢山 2015/9/23 羽数不明 村中政文ほか 羅漢山の地区探鳥会時に記録(70)
- 周南市菅野湖中の島公園 2015/12/1 5羽 小林繁樹 中の島公園に列植された大きなツツジの中をヴィツヴィツ、キュルキュル等と地鳴きしながら5羽が移動。
- 宇部市吉見秋丸田池付近 2015/12/5 1羽 上原勇一郎 大きなさえずりが聞いた。
- 周南市鹿野小河内 2016/6/10 成鳥1羽 小林繁樹 キョッキョロとさえずる。姿も確認。
- 山口市阿東十種ヶ峰 2016/7/5 10±羽 林 眞寛 急に騒がしい鳴き声がしてソウシチョウが10羽位近くの木に飛んで来た。

24. シロガシラ

スズメ目ヒヨドリ科。日本鳥学会(8)によれば亜種シロガシラが八重山諸島(石垣島、小浜島、黒島、竹富島、西表島、与那国島、波照間島)にR B留鳥として繁殖。亜種不明が沖縄(R B留鳥として繁殖)、本州(千葉、石川、広島、山口)、対馬でA V迷鳥、九州(長崎)でW V冬鳥。これらの記録は移入分布の可能性もある。川上・叶内(5)によると原産は台湾。愛玩用の飼育個体が逸出し野生下で繁殖する。県内で3例の記録があり自然分布の可能性もある。

- 山口市阿知須きらら浜自然観察公園 2003/8/2 1羽 原田量介 公園樹林で。山口県初記録。写真有り(71)

下関市豊北町土井が浜弥生パーク 2011/6/3 1羽 豊田敏則 公園の植え込み、テレビアンテナなどに止まる。写真有り。

下関市豊北町土井ヶ浜弥生パーク 2011/6/5 1羽 藤原正徳 クヌギの木に止まる。写真有り。

25. ハッカチョウ

スズメ目ムクドリ科。日本鳥学会(8)によれば本州(東京、神奈川、滋賀、大阪、京都、兵庫)でR B留鳥として繁殖。四国(香川)でC B一時的に繁殖。川上・叶内(5)によると原産は東南アジア。愛玩用の飼育個体が逸出し野生下で繁殖。1970年代に京都で営巣行動が観察され、1983年に大阪、1980～90年代に兵庫で繁殖記録がある。南日本の記録は自然分布の可能性もある。

下関市員光 1996/6/22 1羽 小澤惇成 1羽を観察。籠脱け(72)

26. インドハッカ

スズメ目ムクドリ科。日本鳥学会(8)によれば本州中部(千葉、神奈川)、石垣島でC B一時的に繁殖。川上・叶内(5)によると原産は中国西南部、東南アジア。愛玩用の飼育個体が逸出し、野生下で繁殖。世界の侵略的外来種ワースト100に選ばれている。沖縄では久米島、与那国島などで記録がある。南西諸島で見られる個体もいるが、原産地に比較的近いので自然分布か移入個体かを判断するのは難しい。カバイロハッカとも呼ばれる。県内では下記の1例のみ。自然分布の可能性もある。

下関市六連島 2016/1/27 1羽 豊田敏則 畑と近くの樹木を移動しながら採食するのを観察。
2016/2/4にも同じ場所で同一個体を再度確認した。写真有り。山口県初記録(73,74)

27. オオキンランチョウ

スズメ目ハタオリドリ科。日本鳥学会(8)によれば亜種不明が本州(静岡、京都)でC B一時的に繁殖。川上・叶内(5)によると原産はアフリカ。愛玩用の飼育個体は逸出。京都では1970年代に営巣行動を観察。神奈川では1973年に観察されている。英語名はRed Bishop。

なお日本鳥学会(8)はオオキンランチョウEuplectes orix、川上・叶内(5)はキタキンランチョウEuplectes orix、山階(59)はキンランチョウEuplectes orixと記しているが、ここでは日本鳥学会(8)のオオキンランチョウEuplectes orixにしたがった。

防府市西浦干拓地 1975/9/15 1羽 小林繁樹 キンランチョウを観察(14)

防府市西浦干拓地 1975/12/3 1羽 小林繁樹 キンランチョウを観察(14)

下関市彦島 1982/10/11 ♂1羽 小林繁樹ほか キンランチョウを観察(3)

28. ベニスズメ

スズメ目カエデチョウ科。日本鳥学会(8)によれば亜種不明が本州(栃木、東京、神奈川、山梨、京都、大阪、兵庫、山口)、四国(徳島、愛媛)、九州(福岡、鹿児島)でC B一時的に繁殖。川上・叶内(5)によると原産は南アジアから東南アジア。愛玩用の飼育個体が逸出し野生下で繁殖。1960～70年代頃に東北から九州まで広い範囲で観察されたが最近では分布が縮小。

下関市千鳥浜周辺 1970/*/* 巢 観察者名記載無し (2)

下関市千鳥浜周辺 1972/8/* 2羽 観察者名記載無し (2)

防府市西浦干拓 1974/9/* ♂1羽 観察者名記載無し (2)

熊毛郡田布施町米出干拓地 1979/9/13 ♂1♀1羽 小林繁樹 写真有り (3)

防府市西浦干拓 1984/10/28 10+羽 小林繁樹ほか (3)

熊毛郡平生町人島溜め池 1982/5/9 ♂1♀10羽 小林繁樹 ヨシ原の中でチーチーチュクチュクと鳴く小群を観察 (26)

熊毛郡田布施町米出干拓地 1985/11/2 6羽 小林繁樹 ヨシ原で♂2羽を含む6羽観察 (26)

熊毛郡田布施町米出干拓地 1986/10/28 ♂1羽 小林繁樹 (3)

熊毛郡田布施町米出干拓地 1987/10/23 ♂1羽 小林繁樹 標識調査時1羽を放鳥。測定値は嘴峰長8.5mm、最大翼長47mm、尾長36mm、ふ蹠長13.5mm、体重8.7g (26)

熊毛郡田布施町鳥越溜め池 1995/4/25 3+羽 小林繁樹 ♀1羽を含む3+羽を観察 (26)

この他に小林・内山・内山 (26) によると熊毛郡田布施町・平生町田布施川河口周辺では7月と8月の観察記録はないものの、ほぼ周年ヨシ原に生息するとしている。

光市三井七反田 1990/8/20 ♂1羽 山本健次郎 島田川右岸旧堤防上のサクラの枝に止まってツィーツィーと鋭い口笛の様な鳴き声を出す。写真有り (75)

防府市西浦干拓地 1997/9/29 ♂1羽 山本尚佳 佐波川河口の堤防沿いの土手に生えているヨモギの中をチィチィの声を発しながら枝移り。

山口市秋穂二島幸崎 1997/10/22 ♂1羽 山本尚佳 塩田跡地の埋め立て地側にある遊水池の中に生えたアシの中を飛び回る。

29. ギンバラ

スズメ目カエデチョウ科。日本鳥学会(8)によれば本州(東京、兵庫)、琉球諸島(沖縄島、宮古島)でC B一時的に繁殖。川上・叶内(5)によると原産は南アジア。愛玩用の飼育個体が逸出し野生下で繁殖。

防府市西浦干拓地 1975/12/20 6±羽 二村一男 干拓地のアシ原(14)

小野田市有帆川河口 1979/8/5 1羽 崎内民生(76)

下松市末武川河口埋立地 1983/9/11 1羽 小林繁樹(3)

宇部市妻崎開作(厚南区)新開作西 1986/*/* 標識者不明 成鳥1羽 標識放鳥(61)

30. キンバラ

スズメ目カエデチョウ科。日本鳥学会(8)によれば亜種不明が本州(東京、大阪、兵庫、山口)、四国(高知)、九州(福岡)でC B一時的に繁殖。琉球諸島(沖縄島、宮古島)でR B留鳥として繁殖。川上・叶内(5)によると原産は東南アジア、南アジア。愛玩用の飼育個体が逸出し野生下で繁殖。関東では1990年代以後の記録は少ない。沖縄では1980年代から最近まで繁殖が確認されている。以前はギンバラの1亜種とされていたが最近では独立種とすることが多い。

下関市千鳥浜周辺 1972/9/* 営巣中の2羽 観察者名記載無し(2)

下関市千鳥浜 1973/11/* 1羽 梶畑哲二 写真有り(2)
防府市西浦干拓 1974/9/* 1羽 観察者名記載無し(2)

31. プンチョウ

スズメ目カエデチョウ科。日本鳥学会(8)によれば本州(東京、大阪、兵庫)、九州(福岡)でC B一時的に繁殖。川上・叶内(5)によると原産地はインドネシア。愛玩用の飼育個体が逸出し野生下で繁殖。

熊毛郡田布施町鳥越 1976/9/9 2羽 小林繁樹 スズメ10+羽と共に行動する(26)
防府市西浦干拓地 1979/9/15 4羽 川元 武 飼い鳥が逃げ出したものと思われる(14)
熊毛郡田布施町鳥越 1981/9/9 2羽 小林繁樹(3)

4. 結 果

この結果、表1. 山口県で記録された外来種(外来鳥)リストに示す31種の外来種の確認記録を収録した。表1には移入の経緯と備考欄に外来種の県内での分布状況、繁殖状況や自然分布の可能性などについても記載した。

5. 謝 辞

本報文をまとめるにあたって、外来種(外来鳥)の観察記録や写真をお送りいただいた川口哲男、有馬優、今井章彦、山本健次郎、三谷栄治、豊田敏則、竹林賢二、寺本明広、恩塚政則、岡村裕子、山本尚佳、鹿間信弘、崖 登司之、林 真寛、藤原正徳、上原勇一郎、渡辺 徹、川元 武の各氏に対しお礼申し上げます。

6. 引用文献

引用順に記載。文献の前の数字は、引用文献番号として本文に使用した。

1. 山口県(2002)レッドデータブックやまぐち 山口県の絶滅の恐れのある野生生物. 山口県環境生活部自然保護課
2. 日本野鳥の会山口県支部(1976) 山口県の野鳥. 日本野鳥の会山口県支部
3. 山口県立山口博物館(1989) 山口県の野鳥ガイド. 山口県立山口博物館
4. 村上興正・鷺谷いずみ(2002) 外来種ハンドブック. 日本生態学会
5. 川上和人・叶内拓哉(2012) 外来鳥ハンドブック. 文一総合出版
6. 日本鳥学会(1974) 日本鳥類目録改訂第5版. 学習研究社
7. 日本鳥学会(2000) 日本鳥類目録改訂第6版. 日本鳥学会
8. 日本鳥学会(2012) 日本鳥類目録改訂第7版. 日本鳥学会
9. 山口県(2004) やまぐちの野鳥. 第58回愛鳥週間「全国野鳥保護のつどい」山口県実行委員会
10. 山根和親(2013a) 普及部の活動内容の報告, 山口野鳥45, p22-30, 日本野鳥の会山口県支部
11. 山根和親(2014) 普及部の活動報告, 山口野鳥46, p19-27
12. 山根和親(2015) 普及部活動報告, 山口野鳥47, p17-25

13. 小林繁樹・幡部里子(1979) 光市島田川河口の鳥類. 山口野鳥12, p1-11
14. 小林繁樹・川元 武・二村一男ほか(1882) 防府市西浦干拓地, 佐波川河口の鳥類. 山口野鳥15, p1-19
15. 小林繁樹(1987) 楽しい野鳥の調査(バードカウント)入門 身近な場所での鳥類の目録づくり 山口県徳山市栗屋坂田周辺の野鳥. 山口野鳥20, p56-60
16. 小林繁樹(1991) 楽しい野鳥の調査(バードカウント)入門Ⅱ 徳山市近郊の鳥の移り変わり 山口県徳山市栗屋坂田の6年間のバードセンサスから. 山口野鳥24, p35-44
17. 小林繁樹(1995) 山口県鑄銭司大村神社裏手溜め池群周辺の鳥類調査. 山口野鳥28, p37-48
18. 小林繁樹(1996a) 吉敷郡阿知須町河内 宮の脇池周辺の鳥類調査. 山口野鳥29, p39-47
19. 小林繁樹(1996b) 菅野湖鳥獣保護区特別保護地区に生息する鳥類に関する調査報告. 山口野鳥29, p48-55
20. 武下雅文(1992) 山口県見島の鳥類. 山口野鳥25, p20-30
21. 山本尚佳(1995) フィールドワークを通して思うこと 付 長沢池周辺の野鳥リスト. 山口野鳥28, p18-24
22. 山本尚佳(1997) 大切にしたい, かけがえのないフィールド 里山の自然と鳥たち. 山口野鳥30, p19-24
23. 山本尚佳(1998) 山口県セミナパーク周辺で観察された鳥類. 山口野鳥31, p24-29
24. 山本尚佳(2004) 庭先バードウォッチングのすすめ. 山口野鳥37, p10-16
25. 岡田雅裕(1997) わが家の庭の生き物たち. 山口野鳥30, p46-49
26. 小林繁樹・内山一郎・内山由子(1997) 山口県熊毛郡田布施町・平生町田布施川河口周辺の野鳥. 山口野鳥30, p56-100
27. 末村和行(2004) 霜降山における鳥類の多様性について. 山口野鳥37, p17-22
28. 崖登司之(2008a) 松岳山の鳥類生息 10年前との比較, 山口野鳥41, p17-21
29. 崖登司之(2008b) 霜降山の鳥類生息 10年間の変化, 山口野鳥41, p22-29
30. 崖登司之(2009) アクトビレッジおの周辺の鳥類生息調査, 山口野鳥42, p9-13
31. 崖登司之(2010) 江汐公園の鳥類生息 10年前との比較, 山口野鳥43, p6-10
32. 崖登司之(2011) 丸山ダム湖の鳥類生息10年前との比較, 山口野鳥44, p6-10
33. 崖登司之(2013) 山陽小野田市竜王山の鳥類生息 10年前との比較, 山口野鳥45, p77-81
34. 山根和親(2013b) 身近な環境に目を向けよう. 山口野鳥45, p19-20
35. 日本野鳥の会山口県支部(1990) 山口県版鳥類繁殖地図調査報告書
36. 日本野鳥の会山口県支部(2008) 山口県版鳥類繁殖分布調査報告書2000
37. 日本野鳥の会山口県支部(1980) 山口県萩市見島の鳥類相
38. 武下雅文(1993) 見島の鳥. 自費出版
39. 小林繁樹(1986) ガン類、ツル類、ハクチョウ類等大型水禽類の山口県下への飛来状況. 山口野鳥19, p26-33
40. 山階鳥類研究所(1998) カラーマーキングを用いた調査結果 ハクチョウ類. 平成9年度環境庁委

託調査 鳥類標識調査報告書. p129-131

41. 山階鳥類研究所(2002) 鳥類アトラス 鳥類回収記録解析報告書(1961年～1995年)
42. 三谷栄治(2009) コブハクチョウ幼鳥. 山口野鳥42, アート頁
43. 開作秀敏(2014) 鳥信・短信 コブハクチョウは長門市がお気に入り?. やまぐち野鳥だより234. P9
44. 三谷栄治(2014a) 探鳥会実施報告 阿武川流域14.1.12. やまぐち野鳥だより231. P10
45. 三谷栄治(2014b) 探鳥会実施報告 田万川流域14.3.9. やまぐち野鳥だより232. P7
46. 日野 巖(1964) 見鳥総合学術調査報告書別冊. 見鳥の生物1964
47. 岩井清陸・三宅貞敏(1979) 山口市平川河川敷森林の保存について. 山口野鳥12, p13-21
48. 幡部里子・小林繁樹(1981) 徳山市・周南西緑地公園に於ける鳥類の調査(1974年～1975年). 山口野鳥14, p7-10
49. 小林繁樹(1988) 山口県徳山市・周南緑地東公園の鳥類センサス. 主として第一次センサス('74～'76)と第二次センサス('82～'85)の鳥相の比較. 山口野鳥21, p27-43
50. 小林繁樹(1990a) 山口県下松市末武川河口埋立地の鳥類センサス. 山口野鳥23, p26-36
51. 小林繁樹(1993) 自然河岸と人工河岸での鳥類相の比較. 山口野鳥26, p29-54
52. 小林繁樹(2015) 鳥を食べた鳥のリストー山口県支部野鳥観察データベースの解析ー, 山口野鳥47, p38-49
53. 水口ミキ子(1988) フィールド・ノートより. 山口野鳥21, p2-7
54. 武下雅文(1995) 下関市蓋井島で記録した鳥. 山口野鳥28, p29-36
55. 小林繁樹・弘中 毅(1994) 岩国市尾津ハス田の鳥類. 山口野鳥27, p44-58
56. 小林繁樹(1990b) 山口県・福岡県・鳥根県で記録された人工建造物に営巣する野鳥. 山口県版鳥類繁殖地図調査報告書. 資料編 p327-332. 日本野鳥の会山口県支部
57. 開作秀敏(2013) 鳥信・短信 県内各地に幸せを運んだコウノトリ. やまぐち野鳥だより230, p8
58. 白須道徳(1990)よかったねカッタくん. らくだ出版
59. 山階芳麿(1986) 世界鳥類和名辞典. 大学書林
60. 村田稔恵(2005) 私が触れた鳥 私が触れた鳥たち. 山口野鳥38, p7-8
61. 山階鳥類研究所(2015) 標識データから見た外来種の繁殖可能性. 平成26年度環境省委託業務2013年鳥類標識調査報告書 p22-42. 山階鳥類研究所
62. 村田稔恵(2009) 私に触れた鳥 私が触れた鳥たち IV小鳥が3度止まる. 山口野鳥42, p1
63. 今井章彦(2011) 野鳥観察カード情報 Masked Lovebird. やまぐち野鳥だより216, 15.p17
64. 小林繁樹・小川孝生・梶畑哲二・川元 武・原田量介(1999) 山口県産鳥類目録1999. 山口野鳥32, p50-92
65. 小林繁樹(2014) 山口県におけるソウシチョウの生息分布の拡大傾向 山口野鳥46, p48-52
66. きらら浜レンジャー(2004) きらら浜自然観察公園だより ソウシチョウ. やまぐち野鳥だより176, p27
67. 村中政文(2009) 探鳥会実施報告 生見川ダム09.2.7. やまぐち野鳥だより202. P5
68. 村中政文(2014) 探鳥会実施報告 岩国市羅漢山14.9.20. やまぐち野鳥だより235. P3

69. 白石正喜(2015) 鳥信・短信 長門市日置でソウシチョウの死体発見 やまぐち野鳥だより239, p11
 70. 村中政文(2015) 探鳥会実施報告 岩国市羅漢山15.9.23. やまぐち野鳥だより241. p11-12
 71. きらら浜レンジャー(2003) きらら浜自然観察公園だより シロガシラ. 山口野鳥だより168, p20
 72. 小澤惇成(1996) フィールドノート ハッカチョウ野鳥594, p54. 日本野鳥の会
 73. 豊田敏則(2015) 下関市六連島で記録したインドハッカ Acridotheres tristis. 山口野鳥47, p62
 74. 豊田敏則(2016) 鳥信・短信 六連島でインドハッカに会いました. やまぐち野鳥だより243, p11
 75. 山本健次郎(1990) 鳥・鳥・鳥・・・鳥に夏枯れなし. 山口野鳥23, p6-8
 76. 崎内民生(1981) 私のフィールド・ノートから. 山口野鳥14, p13-16

表2. 山口県で記録された外来種(外来鳥)リスト

No	種 名	移入の経緯	備 考
1	コリンウズラ	狩 獵	野生下で繁殖例有り
2	コジュケイ	狩 獵	野生下で繁殖
3	ヤマドリ	狩 獵	
4	キジ 亜種不明	狩 獵	
	キジ 亜種コウライキジ	狩 獵	
5	ニワトリ	家 禽 の 遺 棄	
6	シナガチョウ	家 禽 の 逸 出	
7	コクチョウ	飼 育 鳥 の 逸 出	
8	コブハクチョウ	飼 育 鳥 の 逸 出	
9	バリケン	家 禽 の 逸 出	
10	アヒル	家 禽 の 逸 出	幼鳥6羽の観察記録有り
11	カワラバト(ドバト)	飼 育 鳥 の 逸 出	野生下で普通に繁殖
12	シラコバト	飼 育 鳥 の 逸 出	自然分布の可能性有り
13	コウノトリ	再 導 入	豊岡市で放鳥
14	モモイロペリカン	飼 育 鳥 の 逸 出	
15	コシベニペリカン	飼 育 鳥 の 逸 出	
16	ナベヅル	国 内 移 入	出水市より移送放鳥
17	ホオジロカンムリヅル	飼 育 鳥 の 逸 出	
18	オオヅル	飼 育 鳥 の 逸 出	
19	セキセイインコ	飼 育 鳥 の 逸 出	
20	キエリボタンインコ(キエリクロボタン)	飼 育 鳥 の 逸 出	
21	カササギ	飼 育 鳥 の 逸 出	自然分布の可能性有り
22	ガビチョウ	飼 育 鳥 の 逸 出	
23	ソウシチョウ	飼 育 鳥 の 逸 出	逸出個体が分布拡大
24	シロガシラ	飼 育 鳥 の 逸 出	自然分布の可能性有り
25	ハッカチョウ	飼 育 鳥 の 逸 出	
26	インドハッカ	飼 育 鳥 の 逸 出	自然分布の可能性有り
27	オオキンランチョウ	飼 育 鳥 の 逸 出	
28	ベニスズメ	飼 育 鳥 の 逸 出	野生下で繁殖例有り
29	ギンバラ	飼 育 鳥 の 逸 出	
30	キンバラ	飼 育 鳥 の 逸 出	野生下で繁殖例有り
31	ブンチョウ	飼 育 鳥 の 逸 出	

図4. 山口県で記録された外来種(外来鳥)の写真



コリンウズラ 2008/7/26
山口市阿知須きらら浜自然観察公園 原田 量介 撮影



コリンウズラ 2009/4/12
山口市阿知須きらら浜 川口 哲男 撮影



コリンウズラ(雛) 2009/10/7
山口市阿知須きらら浜自然観察公園 原田 量介 撮影



コリンウズラ 2010/4/26
山口市秋穂二島4431 有馬 優 撮影



コジュケイ 2006/1/13
山陽小野田市江汐公園 川口 哲男 撮影



コジュケイ 2011/6/10
長門市七重有宗山林道 今井 章彦 撮影



キジ♂(足環付き個体) 2003/4/12
下松市久保中ノ迫 山本 健次郎 撮影



キジ♀(足環付き個体) 2003/4/12
下松市久保中ノ迫 山本 健次郎 撮影



シナガチョウ 1998/6/10
美祿市美東町大島 岡村 裕子 撮影



コブハクチョウ 2014/8/7
長門市三隅川河口 開作 秀敏 撮影



コブハクチョウ 2014/11/23
萩市沖原阿武川 三谷 栄治 撮影



バリケン 2015/12/21
山口市徳地島地川 立野 昌宏 撮影



アヒル 1999/10/29
光市島田1丁目島田川 山本 健次郎 撮影



アヒル 2000/10/1
新南陽市夜市川取水場付近 立野 昌宏 撮影



アヒル 2005/4/10
光市木園1丁目島田川 山本 健次郎 撮影



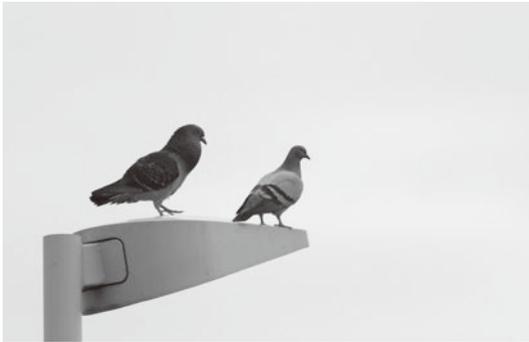
アヒル 2015/5/13
周南市須々万奥菅野湖渡瀬橋付近 小林 繁樹 撮影



ドバト(伝書鳩)足環付き個体 2013/8/18
光市虹ヶ浜3丁目 山本 健次郎 撮影



ハヤブサに捕食された伝書鳩(足環付き個体) 2014/3/7
光市室積岩屋 山本 健次郎 撮影



ドバト(求愛) 2015/12/12
周南市晴海町晴海緑地公園 小林 繁樹 撮影



ドバト 2016/2/22
岩国市広瀬末広橋 小林 繁樹 撮影



コウノトリ(標識鳥 J0048) 2012/10/31
下関市松屋小野溜池 豊田 敏則 撮影



コウノトリ(標識鳥J0052・J0065・J0067・J0068) 2013/12/1
下関市豊浦町黒井村駅 豊田 敏則 撮影



コウノトリ(標識鳥J0106) 2016/5/12
下関市清末千房町神田川河口付近 豊田 敏則 撮影



モモイロペリカン 1997/3/11
宇部市沖宇部常磐公園付近 岡村 裕子 撮影



コシベニペリカン 2005/9/14
山口市阿知須土路石川河口 原田 量介 撮影



ナベヅル(標識鳥P41・P42・P43) 2007/3/21
周南市八代 竹林 賢二 撮影



ナベヅル(アルゴシテム装着標識鳥P45) 2008/2/16
周南市八代 竹林 賢二 撮影



ホオジロカンムリヅル 撮影日不明
萩市見島 川元 武 撮影



キエリボタンインコ 2011/6/30
山口市小郡下郷 今井 章彦 撮影



ソウシチョウ 2004/11/7
山口市阿知須きらら浜自然観察公園 原田 量介 撮影



ソウシチョウ 2012/1/29
下関市火の山山上駐車場脇 豊田 敏則 撮影



ソウシチョウ 2013/7/18
周南市鹿野長野山 寺本 明広 撮影



ソウシチョウ 2014/6/19
岩国市美和町羅漢山 小林 繁樹 撮影



ソウシチョウ 2015/4/17
周南市須々万奥菅野湖中の島公園 小林 繁樹 撮影



ソウシチョウ 2015/4/22
山口市阿東十種ヶ峰 今井 章彦 撮影



ソウシチョウ 2015/9/2
山口市阿東十種ヶ峰6合目駐車場 有馬 優 撮影



シロガシラ 2003/6/3
山口市阿知須きらら浜自然観察公園 原田 量介 撮影



シロガシラ 2011/6/3
下関市豊北町土井ヶ浜 豊田 敏則 撮影



シロガシラ 2011/6/3
下関市豊北町土井ヶ浜 豊田 敏則 撮影



シロガシラ 2011/6/5
下関市豊北町土井ヶ浜 藤原 正徳 撮影



インドハッカ 2016/1/27
下関市六連島 豊田 敏則 撮影



ベニスズメ 1979/9/13
熊毛郡田布施町米出干拓 小林 繁樹 撮影